

2019（平成31）年度 福岡女子大学 外国人留学生入試

〔 A 日程試験問題 〕

食・健康学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は4ページから7ページにあります。問題は全部で**1題**です。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。
- 5 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください**。

問題 国連¹⁾はほぼ毎年、重点的な問題解決を要する問題を「国際年」のテーマに設定している*¹。2013年から2017年の国際年を表1に示す*²。また、表1に示した国際年のなかから、食物に関連する国際年として、国際マメ年と国際キノア年を取り上げ、国際マメ年についての説明を資料1に、国際キノア年についての説明を資料2に示す。

今後、食物に関連する国際年を設定する場合、あなたはどのようなテーマを提案するか。テーマと提案する理由（300字以内）を述べなさい。ただし、表1、資料1～2を参考に考えること。

（英語で解答する場合は、提案する理由については150 words以内で述べなさい。）

表1 2013年から2017年の国際年

	国際年
2017年	開発のための持続可能な観光の国際年
2016年	国際マメ年
2015年	光および光技術の国際年
	国際土壌年
2014年	パレスチナ人民連帯の国際年
	国際小島嶼開発途上国 ²⁾ 年
	国際家族農業年
	世界結晶年
2013年	国際水協力年
	国際キノア年

1) 国連：国際連合

^{とうしょ}
2) 小島嶼開発途上国：小さな島で国土が構成される開発途上国（外務省ホームページ“小島嶼開発途上国(SIDS)” <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/sids/sids.html> 2018年8月21日取得)

出典 * 1 公益社団法人 国際農林業協働協会ホームページ “国際年”

<http://www.jaicaf.or.jp/reference-room/guide/iy.html> 2018年8月21日取得

* 2 国際連合広報センターホームページ “国際年”

http://www.unic.or.jp/activities/international_observances/years/ 2018年8月21日取得

【資料1】

2016年は「国際マメ年」 ～人々の健康や生活に恩恵をもたらすマメの利点を知ろう～

マメは何世紀にもわたり、人間の食生活に不可欠な食べ物となっています。安価でおいしいばかりでなく、栄養価の高いタンパク質と必須の微量栄養素を含んでいるマメは、とりわけ開発途上国で、人々の健康や生活に大いに恩恵をもたらしています。

持続可能な食料生産と健康的な食生活において、マメは重要な役割を果たしていますが、その栄養価値が一般には十分認識されておらず、また、世界のマメ消費量は減少傾向にあります。

こうした現状に国際社会が結束して取り組むため、国連は2016年を「国際マメ年」と決めました。新たな国際年の発足を記念するキックオフ・イベントが2015年11月10日、国連食糧農業機関（FAO）が本部を置くローマで開催されました。

この中で、FAOのジョセ・グラジアノ・ダ・シルバ事務局長は、「豆類は特にラテンアメリカやアメリカ、アジアといった人口の多い地域での食料安全保障において重要な作物であり、その地域の伝統的な食事を構成し、特に小規模農家によって生産されています」と述べました。

また、潘基文（パン・ギムン）国連事務総長は発足式にメッセージを寄せ、「持続可能な開発目標（SDGs）という新たな目標に向かって世界が取り組みをスタートさせる今年、豆類の恩恵について認識を高めることは絶好の機会です」と述べています。

出典： 国際連合広報センターホームページ “2016年は「国際マメ年」 ～人々の健康や生活に恩恵をもたらすマメの利点を知ろう～”

http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/18294/ 2018年8月21日取得 問題作成のため抜粋，一部改編

【資料2】

2013年は国際キノア年：優れた栄養価の穀物「キノア」に世界が注目

国連およびボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルーのアンデス共同体の高官は2013年2月20日、「国際キノア年」を正式に開始しました。何千年もの間、伝統的に培われてきた食料「キノア」の栄養価、経済性、環境および文化的価値についての認識を高めることが、国際年に制定された目的です。

「国際キノア年が、食料と栄養の安全保障、特に世界の小規模農家における貧困の削減、そして環境的に持続可能な農業をめざす上で、キノアの可能性について知るきっかけとなることを期待します」と潘基文（パン・ギムン）国連事務総長は、国際年の開始にあたり国連本部で述べました。

潘事務総長はキノアがアンデス地方の「たぐいまれな」、「文化的よりどころ」であるとし、キノアがすべての必須アミノ酸、微量元素、ビタミンを含む一方、グルテンは含まないことを説明しました。

この小さな穀物は適応性が高く、気温摂氏マイナス8度から38度、海拔ゼロメートルから4,000メートルまでの高地でも生育し、水分が少なくても影響を受けません。

このように高い適応力を備えたキノアは、農地が不毛で、栄養不良率の高い地域において現実的な代替食料であるといえます。国連食糧農業機関（FAO）の試算によれば、2010年には栄養不良に苦しむ人の数は10億人に上り、その大半が開発途上国に暮らす人々であるとされています。

世界の飢餓人口を半減させることは、2015年を達成期限とする国際的に合意された貧困対策目標である国連ミレニアム開発目標（MDGs）の一つです。

食料生産の増大、貧困の削減、キノアなどの栄養価の高い食料へのアクセスを高めることにより、「南米の多くの国が、MDGsの達成に向け大きく前進しています」と事務総長は述べています。

出典： 国際連合広報センターホームページ “2013年は国際キノア年：優れた栄養価の穀物「キノア」に世界が注目” http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/4286/ 2013年8月21日取得 問題作成のため抜粋、一部改編